

今そこにある危機 放射線診療の BCP を考える

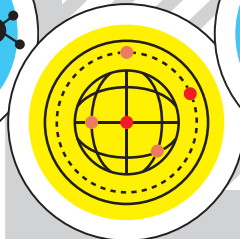
Business Continuity Plan

自然災害・感染症・サイバー攻撃への
備えと対応

企画協力：池田龍二 熊本大学病院医療技術部診療放射線技術部門



infection



disaster

cyber attack



2021年は、東日本大震災から10年という節目の年です。この10年間、地震や豪雨などの自然災害によって、設備の破損や医療機器の故障、停電などの被害を受けた医療機関も多くあり、改めて災害への対策の必要性が認識されています。一方、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック以降サイバー攻撃も増加し、医療機関が標的となり診療に支障を来すケースも出ています。画像検査・診断の重要な役割を担う放射線部門においても、業務を止めないためのBCPを策定しておくことが重要です。そこで、本特集では、放射線診療のBCPについて考えます。

I 総論

特集1

今そこにある危機
放射線診療の
BCP を考える
Business Continuity Plan

放射線診療におけるBCPの重要性

池田 龍二 熊本大学病院医療技術部診療放射線技術部門

2021年は東日本大震災から10年と節目の年である。このわずか10年間でも国内でさまざまな自然災害が発生し、さらに、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の拡大や、サイバー攻撃によるシステムの停止・身代金の要求など、予測不能な時代に突入している。

東日本大震災以降も、平成28年熊本地震、平成30年北海道胆振東部地震など、震度6を超える地震が数年おきに発生している。震災における放射線診療業務の継続の必要性から、各施設ではBCP（business continuity plan：事業継続計画）を策定し、災害に備えた対策を実施し

ている。さらに、近年では、震災だけでなく台風や洪水による被害も発生し、さまざまな災害を想定したBCPの準備が必要となっている。また、2020年のCOVID-19拡大による影響においても、診療業務を継続するためのBCPの必要性を強く感じているところである。

施設全体でBCPを策定していく中で、放射線診療業務においても、災害発生時の非常時優先業務を洗い出し、目標復旧時間を定め、対応する準備を進めなければならない。放射線診療業務の継続においては、画像診断装置が正常に稼働することを確認した後に、業務を継続するこ

ととなる。さらに、災害時にボトルネックリソースとなるライフライン、特に電気が必要不可欠であり、安定した電源の確保が重要である。また、画像診断装置を扱うことのできるヒューマンリソースの確保も重要であり、スペシャリストではなく、多くのジェネラリストの育成が、災害に強い組織を作り上げるためには重要である。

本稿では、放射線診療におけるBCPの重要性について、放射線部門のスタッフとして押さえておきたいBCPの基本的な内容を解説する。

筆者自身、平成28年熊本地震を経験し、その後いろいろな災害が発生するたびに思